

福馬出雲守



福馬新栄梅

北

之

北  
之  
梅

八  
篇  
上

へ13  
3016  
16

福馬出雲守



八  
篇  
上

へ13  
3016  
15

北

之

北  
之  
梅





源三河守心

八篇上

へ13  
3016  
15

遊仙香 八編上

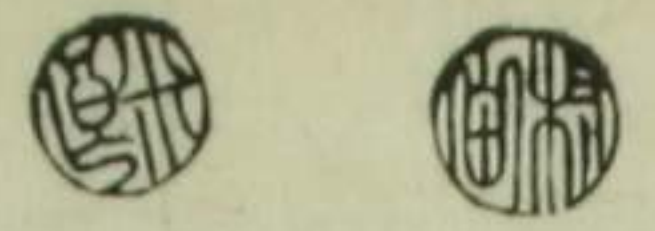
春雨草紙

3016  
15

川柳作 庚戌 新版 錦耕堂梓



新編



王祥氷伏魚踊り。孟宗雪下歎竹得し。魚を待たば物を調味する。と  
 孝公尽ま。此時あるべし。さまで古足る。人情音を好こむ。自然  
 食類製法。變まら。献立。餅の。花暮露。菊形も散る。自然  
 饅頭の米。市と共。小田舎。腹太時。め。花暮露。菊形も散る。自然  
 小自似て。形長。喜撰。衣着。口取。出。業平。梅見。土産。と。兼  
 好。毒。の。魚。菜。類。早。味。七。五。日。の。毒。命。を。延。踊。子  
 骨。あ。て。名。の。料理。茶。屋。で。目。安。の。札。が。出。淡。雪。の。解。て。寝。る。こ。ろ。賣。小。来  
 且。風。鈴。の。正。月。屋。を。兼。帯。し。か。が。餡。こ。け。く。も。口。合。ひ。弁。理。昔。の。倍  
 て。流行。さ。る。あ。り。神。史。も。又。時。世。小。移。り。源。氏。落。窪。行。取。る。と。翻。譯。の。の  
 如。く。な。れ。ど。酸。も。其。の。兼。知。の。子。供。衆。召。て。作。意。を。味。の。音。と。斗。の。詞。を。願。ぬ

嘉永三戌立春新版

緑亭川柳誌



りびすをいかにうらまへ  
 春の山みち  
 おみちをうらまへ  
 おみちをうらまへ





あけのぼり... 春の雨... けさの朝... 雨の音...



あけのぼり... 春の雨... けさの朝... 雨の音...



あけのぼり... 春の雨... けさの朝... 雨の音...









ついでに... 春雨... 雨の音... 雨の匂... 雨の味... 雨の色... 雨の形... 雨の音... 雨の匂... 雨の味... 雨の色... 雨の形...



あつち... 牛... 牛の力... 牛の皮... 牛の骨... 牛の肉... 牛の血... 牛の毛... 牛の角... 牛の蹄... 牛の尾...

あつち... 牛... 牛の力... 牛の皮... 牛の骨... 牛の肉... 牛の血... 牛の毛... 牛の角... 牛の蹄... 牛の尾...



あつち... 牛... 牛の力... 牛の皮... 牛の骨... 牛の肉... 牛の血... 牛の毛... 牛の角... 牛の蹄... 牛の尾...





川柳作 豊國画

ついでに川柳のついでに  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの  
うらみもあつたむねの



遊仙香春雨草紙

緑亭川柳作  
一陽斎豊國画

八編 九編

け草紙七編までを春香草紙といふは外  
思ふに叶ひ大に流行はするが流石の物語  
の類は仙窟に入て技藝の殊に雅俗の人情  
其好感あることと書かへ形に格を念入  
却て中仕ひるおもしろい出さるる後下い

甲舎織糸線狭衣

緑亭川柳作  
一陽斎豊國画

初編 二編 三編

大武之佐の筆作せられたる狭衣の類  
室西の流石の物語とこれに類して古雅な草  
紙と信言ふより上古の物語の余情をうつ  
著者佐々木とて且上巻の美風と下巻の  
流行しゆく一画の筆力とて面白くも命之

義列百人一首

緑亭川柳輯  
諸名画集筆

袋入 一冊

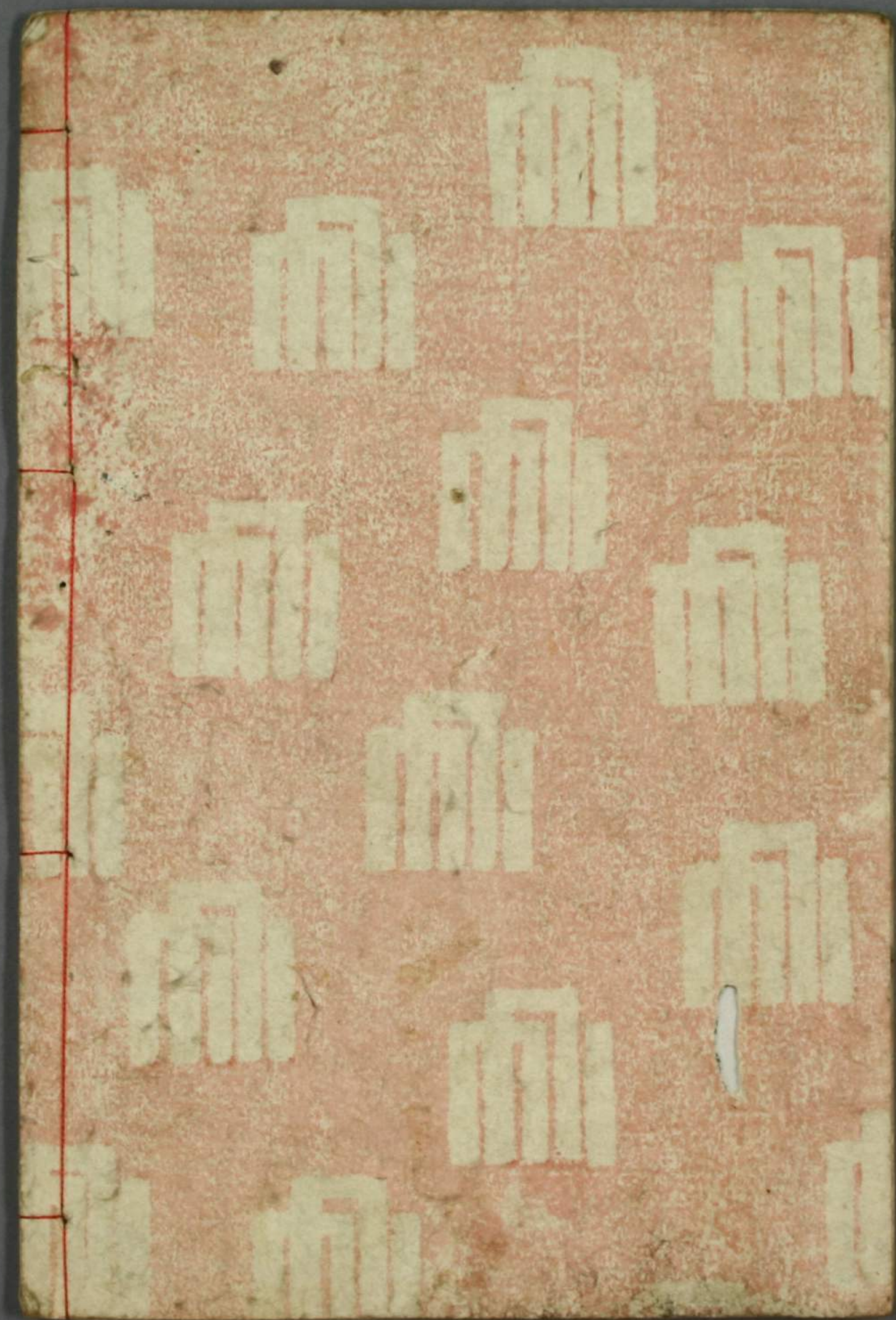
古の鎌倉時代より中々まで  
又かきおの妻とて是等の今とて著者及に白  
又の秋とて揚したる縁せえと流石の流石の  
軍を將とて未だかきとて出たる流石の流石の  
著者幼き婦人の筆とて面白くも命之

畸人百首

川柳輯  
近刻

江戶馬喰下目

錦耕堂 山口屋藤兵衛版



雨島山家

北

比

之



八段成之

多ん様

八篇

臨新中様

13  
3016  
16

滑 馬

まゝまゝに...  
 こゝろに...  
 ころも...  
 まゝまゝに...  
 こゝろに...  
 ころも...



あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...

あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...

へ 13  
 3016  
 16

仙背 八下

あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...



あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...  
 あゝ...





舟のなかの五人  
 その名は...  
 舟のなかの五人  
 その名は...



舟のなかの五人  
 その名は...

舟のなかの五人  
 その名は...



舟のなかの五人  
 その名は...

舟のなかの五人







いさよめつりあり  
 ていふ今日まのちの  
 りしむまをこめて  
 りるのちのちりちり  
 りをましくおそまをさ  
 まてよこのまののち  
 こころをましくおそま  
 のあはれこの  
 こころをましくおそま  
 りのちのちりちり  
 りをましくおそまをさ  
 まてよこのまののち  
 こころをましくおそま



あつちを五日のち  
 えろり山の上の  
 うらやううらやうの  
 その山をさあふらして  
 大人のあふら女あふ  
 うのあふらあふら  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま

あつちを五日のち  
 えろり山の上の  
 うらやううらやうの  
 その山をさあふらして  
 大人のあふら女あふ  
 うのあふらあふら  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま



あつちを五日のち  
 えろり山の上の  
 うらやううらやうの  
 その山をさあふらして  
 大人のあふら女あふ  
 うのあふらあふら  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま  
 こころをましくおそま







夫婦  
目  
泉  
目

夫婦の目... 泉の目...  
目の中... 泉の中...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...

夫婦  
目  
泉  
目

夫婦の目... 泉の目...  
目の中... 泉の中...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...  
泉の目... 夫婦の目...  
夫婦の目... 泉の目...

江戸鹿子紫草紙

初編 文亭梅彦作  
出版 一陽齋豊國画

坂東太郎後世譚

初編 樂亭西馬作  
六編 玉蘭斎貞秀画

岸柳四魔物語

初編 樂亭西馬作  
二編 一雄斎國輝画

昔語太孃の礎

全冊 長嶋一魁車作  
錦朝楼芳虎画

つゞく艸玉の盃

初編 山東庵京山作  
二編 一勇斎國芳画

新編柳樽

三十編 追々集

書物錦繪問九

馬喰町二丁目 山口屋藤兵衛板



豊國画川柳作

